

**第40回(2008年度)サントリー音楽賞は
小山由美氏に決定**

財団法人 サントリー音楽財団(理事長・堤剛)は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第40回(2008年度)受賞者を小山由美氏に決定しました。

●選考経過

1. 2009年1月12日(祝)東京・丸の内の東京會館において、選考委員8名により第一次選考を行い、「候補者」を選定した。
2. 引き続き3月15日(日)東京・赤坂のANAインターコンチネンタルホテル東京において最終選考会を開催、選考委員8名により慎重な審議の結果、第40回(2008年度)サントリー音楽賞受賞者に小山由美氏が選定され、17日(火)理事会において正式に決定された。

●賞金は700万円。

●小山由美氏の贈賞理由は別紙のとおり。

●選考委員は下記の8氏。

礒山 雅・伊東信宏・岡田暁生・岡部真一郎・白石美雪
榎崎洋子・舩山 隆・三宅幸夫

(敬称略・50音順)

<贈賞理由>

小山由美氏は柔軟性のある美声と的確な技術、知的な解釈と風格のある役作りによって、国際的なメゾ・ソプラノ歌手としての地位を築いてきた。ドイツを本拠とし、バイロイト音楽祭などに出演する一方で、日本のオペラ公演にも頻りに参加しており、強い存在感によってステージを引き締める、欠かせぬ存在となっている。2008年はR・シュトラウス《サロメ》のヘローディアス役で新国立劇場公演（2月）、びわ湖ホール公演（10月）に出演したほか、2月に東京二期会オペラ劇場のワーグナー《ワルキューレ》（東京文化会館）でフリツカを演じたが、明晰なドイツ語のディクショント高い芸術性、スケールの大きさにより、抜きん出た印象を与えるものであった。日生劇場開場45周年記念特別公演としてニッセイ文化振興財団と東京二期会の共同制作で11月に上演されたヤナーチェク《マクロプロス家の事》が画期的な舞台として賞賛を集めたのも、難役である主人公エミリア・マルティに扮した小山氏の卓越した演唱のゆえである。異常に長い時間を生きてきた女性の複雑に屈折した生を、氏は説得力のある解釈で迫真的に演じ、最後、死の場面に感動的な盛り上がりをつくり出して、満場を惹きつけた。これは日本のオペラ上演史上に特筆される業績であり、サントリー音楽賞の贈賞にふさわしいものと考えらる。

<略 歴>

小山由美（こやま・ゆみ） 声楽

兵庫県神戸市出身。東京藝術大学声楽科卒業、及び同大学院修了。在学中よりオペラ、オラトリオ及びリートのコンサート等で活動を始め、修了後渡独。ワイマールでの「マタイ受難曲」をはじめ、ケルンにて「クリスマス・オラトリオ」、ミュンヘンにて「エリア」、ライプツィヒにて「レクイエム」等の宗教曲を、シュレスヴィッヒ＝ホルシュタイン音楽祭では『ドン・カルロ』のエボリ公女に出演、ザルツブルグではチャイコフスキー『イオランタ』のラウラに抜擢される。

近年では、ワーグナーやリヒャルト・シュトラウスのオペラ、ヤナーチェク『イエヌーフア』コステルニチカ、新国立劇場『ローエングリン』（開場記念公演）オルトルート、『タンホイザー』ヴェーヌス、『サロメ』ヘローディアス、『ラインの黄金』『ワルキューレ』『神々の黄昏』、『フィガロの結婚』マルツェリーナ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』マグダレーネ等に出演し好評を博した。

また、2003年、二期会創立50年記念『カルメン』タイトルロール、二期会・日生劇場共催『ルル』、2005年新国立劇場『ルル』ゲシュビッツ伯爵令嬢役、さらに東京シティ・フィル特別公演飯守泰次郎指揮『ラインの黄金』『ワルキューレ』『ローエングリン』などに出演し、傑出した演唱を聴かせた。海外では、シノーポリ指揮『ワルキューレ』ロスヴァイセでローマ歌劇場、バイロイト音楽祭にデビューし、バイロイト音楽祭に繰り返し出演を重ねるなど、活躍している。

ドイツ・シュトゥットガルト在住。二期会会員。

以 上

(ご参考)

サントリー音楽賞について

(財)サントリー音楽財団では、1969年の設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人又は団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。賞金は700万円。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫 (ピアノ・チェンバロ・指揮)
第2回	1970年度	堤 剛 (チェロ)
第3回	1971年度	三谷 礼二 (オペラ演出)
第4回	1972年度	小川 昂 (理論・評論)
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会 (国際基督教大学)
第6回	1974年度	秋山 和慶 (指揮)
第7回	1975年度	栗林 義信 (声楽) 山根 銀二 (評論)
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子 (声楽)
第10回	1978年度	松村 禎三 (作曲)
第11回	1979年度	吉原 すみれ (打楽器)
第12回	1980年度	妹尾 河童 (舞台美術)
	特別賞	江戸 英雄 (第1回日本国際音楽コンクール会長)
第13回	1981年度	柴田 南雄 (作曲)
第14回	1982年度	外山 雄三 (指揮)
	特別賞	原 清(ザ・シンフォニーホール建設グループ代表)
第15回	1983年度	鈴木 敬介 (オペラ演出)
第16回	1984年度	豊田喜代美 (声楽)
第17回	1985年度	日本テレマン協会 (室内管弦楽団・合唱団)
第18回	1986年度	内田 光子 (ピアノ) 若杉 弘 (指揮)
第19回	1987年度	岩城 宏之 (指揮)
第20回	1988年度	林 康子 (声楽)
第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)

第23回	1991年度	尾高 忠明（指揮）
第24回	1992年度	練木 繁夫（ピアノ）
第25回	1993年度	五嶋みどり（ヴァイオリン）
	特別賞	ウォルフガング・サヴァリッシュ（指揮）
第26回	1994年度	和波 孝禧（ヴァイオリン）
第27回	1995年度	今井 信子（ヴィオラ）
第28回	1996年度	園田 高弘（ピアノ）
		湯浅 譲二（作曲）
第29回	1997年度	東京交響楽団
第30回	1998年度	林 光（作曲）
第31回	1999年度	三善 晃（作曲）
第32回	2000年度	飯守泰次郎（指揮）
第33回	2001年度	一柳 慧（作曲）
第34回	2002年度	小澤 征爾（指揮）
		木村かをり（ピアノ）
第35回	2003年度	野平 一郎（作曲、ピアノ）
第36回	2004年度	西村 朗（作曲）
第37回	2005年度	鈴木 秀美（チェロ・指揮）
第38回	2006年度	東京混声合唱団
第39回	2007年度	細川 俊夫（作曲）
特別贈賞	1979年6月	巖本真理弦楽四重奏団
”	1997年8月	黛 敏郎（作曲）

以 上